
すしたろうと僕の奇妙な日常

月空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すしたろうと僕の奇妙な日常

【Nコード】

N3665Y

【作者名】

月空

【あらすじ】

とある野良猫がいつか無くしたモノを伝えてくれる。

とある野良猫は空を毎日見上げている。どんな天気でも同じ場所から空を見つめて何かを探すかのように空を見上げていた。そんな猫を僕は変わった猫だと思っていた。

その野良猫はいつも一匹で居た。周りの猫とは接触せず また人間にも全く近付きもしない。まるで一匹狼のように見えた。

ある日の事だった 空を見上げている野良猫が空を見上げながら鳴いていた。前足を空を仰ぐように動かしていた。僕は野良猫が見上げている空を見てみた。その空には雲がなく 青空だけが広がっていた。

こんな青空を見たのは どれ位振りだろうか？ どこか懐かしい気持ちになった

それから数日間 あの野良猫を見かける事がなくなった。捜しモノが見つかったんだろうか？ そもそも空に何捜してたんだろうか？ また僕も空を見上げなくなった

それから一月経った時だった。空を見上げてた野良猫とは別の野良猫が空を見上げて居た。同じように空を前足で仰ぎながら鳴いて居た その空は太陽の周りに雲があり ゆっくりと流れる雲があった 空を見ていると 何故だか涙が出て来た。色々な事を考えてしまったからだろう。猫の鳴き声がしたと思ったら あの居なくなつた野良猫が隣に居た。

こちらを見ながら鳴いている。何かを伝えるように見えた。それが すしたろうつて名付けた瞬間だった。しかし「たろう」だが

メス猫だ。

すしたろくに会う度にすしたろうと呼び続けたせいかな 次第にすしたろうと認識するまでに至った。この頃から すしたろうのある行動が始まった。僕の部屋の窓を叩いて餌をねだったり 風呂に居ると窓を叩いたり猫とは思えない行動が始まった。

餌を与えると お返しだろうが捕まえたネズミや鳩を持ってくるようになった。

どうやら僕を仲間だと思ってるようだ。

ある日の事だった。仕事を終え帰宅するとすしたろうがああ場所で見上げていた。僕の呼びかけに全く反応しない。ただ空を見上げている。すしたろうが見上げる空を見た。その空はオレンジ色に染まり雲もオレンジ色に染まっていた。その空を見上げながら すしたろうは前足を上げ鳴いている。一体 すしたろうは何を捜してるんだろ？ この疑問を解くまでには時間が掛からなかった。

そうそれは ある寒い冬の朝の出来事だった。あの場所ですしたろうが空を見上げて何かに反応する仕草をしている。そして空を見上げた次の瞬間だった。

空に黒い線が入り その線が開いていく その中から球体が次々へと出て来る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3665y/>

すしたろうと僕の奇妙な日常

2011年11月15日01時02分発行